

## 臨床経験レポート

[症例] 40代 男性 中等症うつ病エピソード (F 3 2. 1 1)

[初診時主訴] うつ気分・易疲労感・上司への恐怖感・不眠・食欲低下・

[生育・生活歴] 中学の頃から公務員希望。大学卒業後直ぐに某公的機関に入社、現在も勤務中。

[家族歴] 特になし。

[病前性格] 貴重面、生真面目、小心、

[既往歴] X - 1 1 年 7 月から部下を持つ係長に出世。大きなプロジェクトのリーダーになるが、上司として部下を適切に指導できず、うつ状態に陥り、9 月当院受診。マレイン酸トリミプラミンと塩酸マプロチリンの効果により症状は改善し、2 月間の休養で職場復帰が可能となった。復帰前に行われた上司との話し合いによる環境調整が、病状の改善と職場への適応に顕著な効果をもたらした。

[現病歴] X 年 7 月地方から東京に転勤、現在今の職場に配属となった。これまでも 5 年間ほど経験し慣れた部署であったが、これまでの経験が全く通じなく、怖くて優秀な課長から毎日のように叱責を受けるようになった。X 年 8 月から不眠、9 月から、うつ気分・疲労感・起床困難が顕著になり、9 月中旬から労務不能となり、1 0 月始め当院初診となった。

[診断とその根拠] 抑うつ気分、興味と喜びの喪失、易疲労感、希死念慮などのうつ病の典型的な四つの症状が顕著であり、さらに一般的症状が 5 つと身体性症候群が 4 つ以上認められたことから、身体性症候群を伴う中等症うつ病エピソード(F32.11)と診断した。

[治療経過] まず塩酸マプロチリンとフルニトラゼパムから治療開始したが、若干の意欲の改善は認められたが、復帰には不十分であった。前回のうつの治療経験から、すぐに常務との話し合いの機会をもった。

その結果 1 1 月初めから、以前勤務していた怖い上司のいない職場への異動が決まった。今回も適切な環境調整が、恐怖心からの職場不適合に多大の成果をあたえてくれた。X + 1 年 1 月頃には、“職場のみんなが気を使ってくれて、仕事が楽しい”と語るまでになった。

[考察] (本症例で学んだこと)

- a) 塩酸マプロチリンとフルニトラゼパムにより、前回も今回も顕著な効果が得られた。
- b) 過重な仕事を与えられても、“限界を超えている”と上司や同僚に訴えるのが苦手で、自分一人で解決しようとし、疲れ果てて消耗しきってうつ病に陥ってしまう燃え尽きうつ病型の性格傾向が顕著に認められた。今回も前回も、治療者と上司の話し合いによる環境調整で、患者の居場所が復活し、早期の職場復帰が可能となった。環境調整の重要性を痛感させられた。(字数：1048 字)